■ 基本方針

平成２８年度に策定した新校舎建設マスタープランを踏襲し、以下を基本方針とする。

【目指す姿】

「共に学び　共に育つ　学校づくり」

基本理念	設計コンセプト
１．思う存分体を動かし、様々な体験ができる学校づくり	・運動施設の充実 ・様々な体験ができる屋外学習空間
２．学ぶ楽しさ、教える喜びが実感できる学校づくり	・「主体的・対話的で深い学び」を充実させる空間　ラーニングコモンズ ・授業に集中できる普通教室・オープンスペースの環境づくり ・学習環境の充実 ・執務空間の充実と働きがいのある空間づくり
３．明日また行きたくなる楽しい学校づくり	・居心地のよい生活空間をつくる ・安全安心な学校
４．地域をつなぎ、未来を拓く学校づくり	・学童保育所と複合化を図り子育て世代を支援する ・耐震性の確保 ・避難所機能の充実 ・地域に開放する多目的室（ホール）を配置する ・学校支援ボランティア室やコミュニティールームを配置する ・みんなに親しまれる学校を目指す

４つの基本理念をもとにした設計での取り組み

１．思う存分体を動かし、様々な体験ができる学校づくり

〇運動施設の充実

・校庭は、現在の若葉小学校より広い面積を実現する。
・地域の利用も踏まえ、野球、サッカーが行える成型な形状とする。

〇様々な体験ができる屋外学習空間

・生き物と触れることのできる「みんなの森」を設ける。
・花植えや農作業ができる、花壇や学級菜園を設ける。

２．学ぶ楽しさ、教える喜びが実感できる学校づくり

〇「主体的・対話的で深い学び」を充実させる空間　ラーニングコモンズ

・子どもが主体的に学習できる環境を整備する。
・学習サイクルである「学ぶ・調べる・発表する・展示・掲示する」を実行できる、校舎全体が学習空間となる環境をつくる。
①２階多目的室２を中心とした集いや交流、発表の空間
②３階図書室と多目的室３、外国語教室、一体の空間は、ライブラリーラーニングコモンズとして気軽に立ち寄れ、本が身近に感じられるつくりとすることや、調べ物学習などの双方向の授業が可能な空間
③４階理科室と多目的室４と連携した、創作、新たな発見の空間
以上の３つの空間をつなぐ階段を含めた空間をラーニングコモンズとし、学びの中心となる空間を実現する。

〇授業に集中できる普通教室・オープンスペースの環境づくり

・児童が授業に集中できる環境とするため、黒板面をシンプルな壁で設える。
・普通教室とオープンスペースの間には、大きく開放できる扉を設置し、普通教室の独立した環境を確保する。
・オープンスペースに収納スペース・展示掲示スペースを充実させる。
・他の学年のオープンスペースを通過せずに、特別教室等へ移動できるルートを確保し、学年のまとまりをつくる。

〇執務空間の充実と働きがいのある空間づくり

・印刷コーナーをつくりＩＣＴに対応した授業の準備や資料作成が行いやすい環境とする。
・給湯機能と打合せ機能を合わせた給湯コーナー（教師ラウンジ）を設け、リラックスして教師間のコミュニケーションが図りやすい空間とする。

３．明日また行きたくなる楽しい学校づくり

〇居心地のよい生活空間をつくる

・子どもたちの荷物を適切に収納できるスペースを確保する。
・トイレは、明るく快適な空間とする。
・内装木質化を図り温かみのある空間づくりを行う。

〇アプローチ・昇降口空間

・子どもを迎え入れる場所として相応しい空間づくりを行う。
・昇降口から校庭へ、スムーズな移動がしやすいつくりとする。
・昇降口は、学年の体格差にあった下足入れ等を設ける。

〇安全安心な学校

・校舎全体が明るく、教職員の目の行き届く計画とする。
・バリアフリーな校舎として、エレベーター・多目的便所を設置する。
・北側道路の狭隘な歩道空間を解消するために、歩車分離や校舎を後退させ、安全安心な登下校の空間を整備する。

４．地域をつなぎ、未来を拓く学校づくり

〇学童保育所と複合化を図り子育て世代を支援する

・学童保育所を複合化し、学校とまとまりある計画とするとともに、独立した運営が可能な計画とする。

〇耐震性の確保

・避難所として位置づけられた施設として、大地震動後、構造体の大きな補修をすることなく、建築物を使用できることを目標とした。（耐震安全性（Ⅱ類Ａ類乙類）を確保する）

〇避難所機能の充実

・一次避難所としてバリアフリーに配慮した計画とした。二次避難所に指定されている学童保育所との連携しやすい施設とする。また、多目的室（ホール）は要支援者の為の畳スペースとして活用できるゾーニングとした。１階に防災倉庫を配置した。

〇地域に開放する多目的室（ホール）を配置する

・１階に地域に開放可能な、多目的室（ホール）を配置する。席数は１学年を収容できる席数とし、可動収納椅子を採用し平土間空間としても活用できるフレキシブルなつくりとし、学校、地域の様々な活動が行える空間とする。

〇学校支援ボランティア室やコミュニティールームを配置する

・１階地域開放エリアの昇降口横にコミュニティールームを設け、地域と学校のそれぞれの活動が身近に感じられる配置とする。
・学校支援ボランティア室は学校を支援する方々の拠点とし、職員、事務、ＰＴＡとの連携が行いやすいエリアに配置する。

〇みんなに親しまれる学校を目指す

・若葉町の新たなシンボルとなる学校としてつくる。
・２校の歴史等を見られる展示空間を設ける。
・学校の顔にあたるアプローチ空間を魅力的につくる。
・安全性を踏まえた上で、地域の方々に、学校の雰囲気（子どもの様子）が伝わる校舎を目指す。